

令和2年（2020年）の新しい年を迎えて

長崎県技術士会 会長 山口 和登

新年あけましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様に多大なるご協力、ご支援をいただき大変感謝しております。昨年より年号も平成から令和となり、令和最初の新年のご挨拶となります。2011年（平成23年）に会長に就任し、会長として今年5月で満9年となります。来年には10年となり、長期の在任は大きな弊害となりかねません。長崎県技術士会の会長職は日本技術士会の支部長の様に任期がありません。この為、後任、任期の件も大いに検討する必要があると考える新年です。

昨年の報告ですが、会員数の拡大については45年前の昭和50年（1975年）の発足時に会員数約10名が平成2年（1990年）に51名、平成17年（2005年）に100名、平成23年（2011年）の前大東会長から会長を引き継いだ総会時の会員数が131名、令和元年（2019年）末で177名と順調に会員増となりました。会員数が伸びたことは大変喜ばしいことです。

会員名簿については昨年も350部の作成を行い、会員のみならず長崎県、長崎大学、国土交通省等の関係機関及び三菱関連企業等に配布を行い、各配布先では非常に興味を持たれ、長崎県技術士会自体及び会員の知名度の向上等に寄与しています。機関紙 APREN も定期的に年4回の発刊、会員への配信を行い、今回で第68号となりました。長崎地盤研究会や産業基盤維持管理技術研究会など関係学会、関係協会、公益財団法人長崎県

建設技術研究センター（ナーカ）をはじめとする関係団体の主催する技術講習会、見学会、技術フェアなどの行事の後援、協賛やそれらの行事へ参加、講師の派遣等も実施してきました。これらの施策については今年も継続、拡充していく所存であります。また、長崎県技術士会専用のホームページは長崎県技術士会情報配信局が適時に管理・更新し、多くの行事案内や機関紙掲載等ホームページの充実と迅速化等に努めてまいりました。ホームページをさらに充実、有益するために、内容等に対するご意見、要望等をお知らせ頂ければ幸いです。

長崎大学との連携ですが昨年1月に長崎大学工学部工学科社会環境デザインコースと長崎県技術士会が協力して第4回目の技術士会講演会を実施し、今年の2月には5回目の講演会を実施する予定です。この講演会の詳細については次回4月の機関紙第69号で詳細に報告しますのでそちらをご参照ください。

長崎県技術士会の令和2年度（2020年度）の総会が6月6日に予定されています。令和2年度は役員非改選の年であり、役員改選はありませんが、一部会則の改定を予定しています。詳細についてはホームページやメールにて事前にお知らせし、総会で正式に報告したいと思います。

公益社団法人日本技術士会九州本部長崎県支部（山口昭光支部長）との連携はさらに具体的な連携が強化促進され、昨年も例年通りにCPD研修会を3回、CPD見学会を2回実施し、具体的に動き始めた技術士資格更新制度に対応すべく充実してきています。長崎県支部の支部長をはじめと

する役員はすべて長崎県技術士会の役員から成っております、また研修会や見学会はすべて県支部と県技術士会の共催としております。今年も日本技術士会長崎県支部とは物心両面でさらに連携し、県内外での活動をより活性化する所存であります。

以上、技術士会の主な活動状況及び今年の活動方針等について述べましたが、将来的にはこの会がさらに充実し、活動が活発になることが会員の増加ひいては会の発展、社会への貢献増大につながるものと確信しております。昨年も述べましたが、技術士会や学会等の活性化の一つの指標として具体的数値である会員数の増加と言う点が挙げられます。会員数を増加させるには、魅力ある会であることが必要不可欠であります。魅力ある会とは納めていただく会費以上の価値、例えば情報であり、人脈であり、信用であり、自己啓発の場であったりします。この価値を高めることが結果として会員増加に繋がるものと思います。具体的な会員数としては、現在の177名が近いうちに200名を超える会員数となることが当面の数値目標です。

年の初めに当たり例年の様に長崎県技術士会の状況、当面の活動方針、将来像等について述べましたが、長崎県技術士会の運営につきましては役員をはじめ会員各位のご協力、ご支援が不可欠であります。この為のご意見、ご提案等をお待ちしております。特に会員増員に向けてのご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。最後となりましたが今年の皆様のご健康、ご繁栄、ご多幸を祈念しまして令和最初の新年の御挨拶と致します。

令和元年度 日本技術士会九州本部 長崎県支部 第2回CPD見学会報告

長崎県支部 折田定良 (建設・長崎)

令和元年10月17日(木)、長崎河川国道事務所様のご好意により「国道57号 森山拡幅(島原道路)」において長崎県支部第2回CPD見学会を山口昭光支部長 以下37名の参加で開催しましたので報告します。なお、今回の見学会は長崎県技術士会が後援する(公社)地盤工学会九州支部/長崎地盤研究会の令和元年度現地見学会との共催となっており、同勉強会より12名が参加されました。

1. 事業の概要と進捗について

森山拡幅事業は、交通混雑の緩和および交通環境の改善を目的として4車線の現道拡幅及び2車線の自動車専用道路の延長7.6kmの事業であります。これまでに長野町から尾崎交差点間の延長1.6kmの4車線の現道拡幅が開通しています。

現道拡幅は、全幅25mの4車線道路で設計速度は60km/h、自動車専用道路は全幅12mの2車線道路で設計速度80km/hで設計されています。

今回は、釜ノ鼻駅近くの地盤改良工事現場および森山駅前の橋梁架設工事現場を見学させていただきました。

2. 釜ノ鼻地区2工区改良工事

森山拡幅事業の自動車専用道路区間は、全線が軟弱地盤である有明粘土層の地盤の上に計画されており、盛土区間においても橋梁区間においても地盤改良工事を必要としています。また、沿道は島原鉄道および民家に近接しており、騒音、振動、地盤沈下などに留意する必要があるとのことです。

現地では、杭の間隔を広げることによりコスト縮減を図る ALiCC 工法の採用や島原鉄道と近接している箇所については、変位の少ない LDis 工法を採用する等、周囲に影響がないよう細心の注意を払いながら作業を進められていました。特に鉄道営業線沿いでは、施工時の変位管理値として 8mm 以下の基準を定め、LDis 工法により土 2mm の変位量で無事施工を完了したということです。

改良杭の最大貫入長は 23.0m、施工本数は 200 本以上／年、改良径は ϕ 1.6m に及びスラリー攪拌による深層混合、中層混合を併用して施工されていました。



写真1 地盤改良現場の見学

3. 下井牟田赤崎高架橋上部工（P11～P17）工事

橋梁架設工事の見学箇所は、下井牟田赤崎上部工工事であり、橋長は約 198m、鋼 6 径間連続非合成鋼桁橋（耐候性鋼材）が採用されています。



写真2 橋梁架設工事現場の見学

上部工は、2018 年 11 月より大阪の工場で

製作が開始され、2019 年 7 月に搬入、据え付けが始まり、見学時にはほぼ架設は完了していました。

見学では、高張力ボルトの締め付け体験や桁上部の防護柵や足場の安全施設の確認を行いました。



写真3 高張力ボルトの緊張体験

4.まとめ・謝辞

今回見学させていただいた国道 57 号森山拡幅事業は、地盤改良工並びに橋梁架設工事いずれも高度な新技術の導入と共に周辺地域への影響や安全面への活動にも積極的に取り組まれ、地域社会の発展に貢献されているすばらしい現場である印象を受けました。

また、業務多忙にも関わらず快く見学を受け入れていただいた長崎国道河川事務所 児玉祐一氏、横町将司氏（技術士 建設部門）、小宮淳一郎氏におかれましては、詳細な資料の提供と共に、懇切丁寧な講義及び現場でのご説明を賜わりまして、改めて感謝の意を表します。さらに株式会社長崎西部建設、日本橋梁株式会社の関係者の方々には見学会参加者の迎え入れから、解散まで多数のご配慮をいただいたことに、改めて御礼を申し上げます。



写真4 事業説明講座状況

最後に当日はあいにくの小雨まじりの天候の中、40名近くの方々にご参加いただき、盛会に終了することが出来ましたことを感謝いたします。

(以上)

(E-mail : s.orita@hasikan.com)

令和元年度第3回研修会報告

長崎県技術士会 中司龍明（応用理学部門）

（株）長崎地研 執行役員技師長）

令和元年12月4日に、（公社）日本技術士会九州本部長崎県支部第3回研修会が下記内容で開催され、その研修会に参加しましたので報告します。

開催場所：L & L ホテルセンリュウ（諫早市）

出席者：34名

講演1. 「認知症の理解について」

県福祉保健部長寿社会課係長 中村修太 氏

県福祉保健部長寿社会課主任技師 前山隆史 氏
認知症対応は、超高齢化社会に入った我国にとって、最重要課題のひとつであり、その理解を進め「認知症サポーター」養成の重要性についてご講演いただいた。

（講演内容）

・最初に、長崎県における年齢65歳以上の人団、

高齢化率、認知症者数の現状と将来推計について、説明があり、「認知症サポーター」とは？の導入部講演があった。



写真1 中村修太 先生

・次に「認知症を学び 地域で支えよう」（認知症サポーター養成講座標準教材）を基に認知症を理解することを中心として以下の講演があった。

- ① 認知症とはどういうものか
- ② 認知症の症状
- ③ 中核症状
 - ・記憶障害
 - ・見当識障害
 - ・理解、判断力の障害
 - ・実行機能障害
 - ・感情表現の変化
- ④ 行動・心理症状とその支援
- ⑤ 認知症の診断・治療
- ⑥ 認知症の予防についての考え方
- ⑦ 認知症の人に接するときの心がまえ
- ⑧ 認知症介護をしている人の気持ちを理解する



写真2 前山隆史 先生

その後、ビデオにより、認知症の方への対応の具体的な事例紹介により、認知症サポーター養成へ向けた講義が締めくくられた。

(講演を受講しての感想)

一連の講演の流れが円滑で、かつ明快であり、非常に理解しやすい講演であった。

認知症は誰もがなりうることから、認知症の人やその家族が地域のより良い環境で自分らしく暮らし続けるには、認知症の社会への理解を深め、地域共生社会を目指す中で、認知症があってもなくとも、同じ社会の一員として地域とともに創っていくことが必要と感じた。そのためにも、認知症サポーターは、地域や職域で認知症の人やその家族を手助けする応援者として、これからますます必要になってくると思われる。

講演2. 「高齢者の交通安全」

県県民生活部交通・地域安全課課長補佐

小川隆博 氏

最近、マスコミでも取り上げられることの多い高齢者の交通事故について、その発生状況、特徴を分析するとともに、事故防止、歩行者としての被害防止のご講演をいただいた。



写真3 小川隆博 先生

(講演内容)

最初に、長崎県内の高齢者の交通事故の現状として、高齢者が関係する交通事故の発生件数および

全体に占める構成率などの数値説明があり、続けてその交通事故の特徴点について、一般ドライバーと比較し、劣っている点を挙げて説明があった。そこで、受講者に対して「運転時認知障害早期発見チェックリスト」として30項目のチェックを行い、このうち5項目に入った場合、要注意との指摘があった。

次に、高齢歩行者の交通被害防止について説明があり、県内で発生した具体的な事例紹介と特徴説明、および事故防止について説明があった。ここで歩行者の運転者に対する注意喚起の反射材付ネックウォーマーが配布された。

最後に、高齢運転者の交通事故防止について、同様に県内で発生した事故事例の具体的説明があった。発生の要因について、高齢者の心理面から見た内的要因、身体的要因を挙げられ、それらに対して、日頃から心がけること、運転時の留意点、その他留意点の対策を挙げて締めくくりとなつた。

(講演を受講しての感想)

講演者の事故鑑識経験も入れた具体的な事故事例も多く、講演は非常に分かりやすかった。受講者からの質問が相次ぎ、関心の高さがうかがわれる。運転については、今までの経験による「慣れ」が怖いと感じたし、今後、車両の改良により、自動ブレーキシステムや自動運転システム導入に伴う法令改正など多様な対応が必要と感じた。

講演3. 「地域防災力の向上」

県危機管理課参事 山口秀寿 氏

長崎県内で発生する災害に備え、日常よりどのような防災対策を行い、災害発生時にどのような対策を実施するのかを踏まえ、地域防災力の向上についてご講演いただいた。

(講演内容)

冒頭に「危機管理とは」の定義説明があり、続いて長崎県内における過去の災害事例を直近の豪雨災害、大規模な豪雨災害、雲仙普賢岳の火山災害の紹介と活断層分布による地震発生の可能性の説明があった。



写真4 山口秀寿 先生

次に、防災に対する基礎知識および災害対策基本法の説明があった。これに続き、長崎県が行っている防災について、気象庁発表の各種防災情報と自治体が発表する警戒レベルの関係、および平成30年7月豪雨時の実際の避難状況も説明しながら、長崎県災害警戒本部の設置の基準・体制につ

いて、説明された。

続いて、地域防災力の重要性について、県や自治体が災害発生時に体制をとる前から、その活動を起こすことで、被害拡大の抑制と共助による地域防災の進め方の講義があった。また、具体的に水害時、土砂災害時の避難の目安についても説明された。

最後に、過去に発生した大災害に対するハード対策、防災ヘリ「ながさき」の活動紹介があり、防災に対する心構えを説明し締めくくられた。

(講演を受講しての感想)

長崎県地域防災の現状が良く理解できた。豪雨時の避難指示の出し方、避難場所の設置などに疑問が残り、今後、住民を含め、産官学一体となって、取り組みを進める必要があると感じた。技術士会は、この防災、とりわけ自然災害に対する防災の知見を多く有しており、協力体制をとるべきと考える。

(以上)

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

(1) お知らせ

令和2年度の総会および第1回CPD研修会は、6月6日（土）に諫早「道具屋」ホテルで予定しています。詳細は、後日HPやメールでお知らせ致します。

(2) 編集後記

新年、明けましておめでとうございます。2020年の東京オリンピック開催年となりました。

広報誌APRENは、今年も長崎県技術士会の活動や行事の報告、会員の皆様のご意見を詳細に掲載出来る様に努めます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

先に長崎県技術士会会員様に実施した「技術士資格のメリット・デメリット」に関するアンケートは、27名の方々から、丁寧な回答を戴きました。これから技術者への貴重なご意見を頂き有り難うございました。このアンケート結果を集計し、2月3日の長崎大学工学研究科社会開発デザインコースの講演会に使用させていただきます。次号にて学生の意見なども交えてご報告できると思います。

機関紙発行担当の連絡先 園田直志

sonoda_naoshi@icloud.com